



五中だより

府中市立府中第五中学校

校長 酒井 泰

令和2年3月25日 No.10

令和元年度 卒業式

今年度の卒業式は、新型コロナウイルス感染防止の徹底のため、卒業生と保護者（一家庭1名）、教職員のみの参加で行われました。また、内容も国歌斉唱、卒業証書授与、校長式辞、校歌斉唱という短縮された形での実施となりました。そのような中、卒業生は立派に堂々と一人一人卒業証書を受け取り、本校を巣立っていきました。今年度の卒業式では、教職員が校庭一面に石灰で卒業祝いのアートを作成し、卒業生への思いを伝えました。また、校庭での見送りの前に、3年間学んだ校舎を背景に学級ごとの記念写真も撮影し、少しでも思い出となるように工夫を凝らしました。

「送辞」と「答辞」についても、卒業式では披露することができませんでした。卒業生には、式の当日、印刷したものを渡しましたが、在校生の皆さんにも紹介したいと思い、今回掲載させていただきました。



<校長式辞(一部抜粋)>

明るい春の日差しが、桜の花や緑の葉を照らし、きらきらと輝き、皆さんの門出を祝っているようです。府中市立府中第五中学校を卒業し、新たな道を歩み始める165名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。(中略)

例年ならば、皆さんの卒業をお祝いするために、多くの来賓の方々の参列をいただくのですが、今年は、新型コロナウイルスの感染予防の徹底のため、お招きすることはできませんでした。また、保護者の皆さまにも一家庭一人のみと、参加人数を限ることにご協力をいただく中で、本日の卒業式を行うことになりました。卒業生の皆さんにとっては、誠に残念であると思いますが、ぜひ、理解していただきたいと思います。

さて、卒業生の皆さん。本日、皆さんは3年間を過ごし、思い出がいっぱい詰まった府中第五中学校を巣立っていきます。私は、3年前、入学式で皆さんに期待することとして、2つの言葉を贈りました。覚えてくれているでしょうか。

第一は、「目標をもって努力する人になってほしい」ということ、第二は、「これからの人生で、互いに助け合い、高めあう友人に出会ってほしい」ということでした。

この3年間、私は皆さんに始業式や終業式をはじめ、朝礼などの機会に「目標をもって努力することの大切さ」を繰り返しお話してきました。大きな夢を実現するためには、3年先の目標を立て、それを実現するための2年先の目標、そして1年先、半年先、1ヶ月先など、スモールステップで目標を立て、実現に向けて努力することの大切さについて紹介したり、「努力する人は夢を語り、怠ける人は不満を語る」という言葉を引用し、失敗を恐れること

なく、自分の目指す目標の実現に向け、チャレンジしていくことの大切さについてもお話ししました。皆さんは、成長に伴って変わる自らの目標に、真正面から向き合い、立派に成長してくれたと思います。大切なことは、自分の夢が叶ったかどうかではなく、自分が立てた目標の実現に向けて努力できたかどうかだと思います。

それは、これからの長い人生において、様々にやってくる困難を乗り越えるために最も大切な力だと思うからです。

どうぞ、皆さん。「急ぐ必要はありません。しかし、常に自らを高めるための努力をしてほしい」と思います。

今年度、本校は、秋の台風19号により、合唱祭の延期、校舎への浸水被害という多大な影響を受けました。

ともすれば、目標を見失い、取り組む意欲をなくしてしまいそうな状況であったにもかかわらず、最高学年の3年生として落ち着いて、毎日の学習に集中してくれました。皆さんが最上級生として立派な姿を後輩に見せてくれたことが、今の府中第五中学校の落ち着きと、TPOをわきまえた行動ができる生徒であるという、素晴らしい評価を築き上げたのだと思います。

皆さんが入学してから始まった「草刈りボランティア」「気持ちの良いあいさつ」「自分のことより他人のことを大切にしたい思いやりのある行動」どれもその意義を十分理解し、日々、地道な努力をしてくれました。皆さんのおかげで、府中第五中学校は大きく変わりました。明るく日の光が降り注ぐ校舎、きれいになった校庭の周りの垣根、生徒会・委員会活動は言うに及ばず、ボランティア活動にも積極的に取り組んでくれる生徒たち、こうした今の府中第五中学校の特徴や良さを皆さんが作り上げてくれたと思っています。本当にありがとうございました。

さて、もう一つお話ししたいことがあります。それは、皆さんの中学校生活で最も大きな収穫は、何事にも代えがたい友人を得たことではないでしょうか。楽しい時には共に喜び、つらい時には励ましてくれる、一生付き合える友と呼べる人と出会ったことと思います。

この府中第五中学校で共に過ごし、共に助け合った友人をこれからも宝物として大切にしたいと思っています。損得で結びついたものではない、心と心で結びついた友人関係は、たとえ、これから別々の道を歩んだとしても、これからの人生で、必ずや心強い味方となり、皆さんの人生を支え、豊かなものとしてくれることでしょう。ぜひ、強い絆でつながりを保ち続けてほしいと思います。(後略)

<送辞>

桜の香りに包まれたこの良き日に、府中市立府中第五中学校を卒業される3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

私たち在校生が先輩方の新たな一步を踏み出す日を見届けることができないことが、とても残念です。直接お会いすることはできませんが、私たち在校生一同から皆様のご卒業を心からお祝い申し上げ、お祝いの言葉を届けたいと思います。

振り返れば、2年前の入学式、不安が大きかった私たちを、先輩方は笑顔で、温かく迎えてくれました。私はそのとき、「五中には頼れる先輩がたくさんいるから大丈夫」と、不安が安心に変わったことを強く覚えています。先輩方は行事や部活動で3年生とともに盛り上げ役となって、学校をより良い場所にしてくださいました。

先輩方が最上級生となり迎えた運動会では、先輩方が先頭に立って、私たちを引っ張ってくれました。他学年に対しても一生懸命に応援し、五中全体を一つにしようと努めていた姿に、胸が熱くなりました。クラスで一致団結し、楽しみながら競技に取り組む姿に接し、大切なのは勝ち負けではなく仲間と同じ目標に向かって、精一杯頑張ることだと学びました。

合唱祭では、誰もが圧倒される素晴らしい歌声を会場に響かせてくださいました。一人一人が全力を尽くして歌っている姿に、私たちは心を震わせていました。



生徒会での地域清掃や草刈りボランティアでは、うまく運営することができなかった私たちをみて、先輩方はさりげなくアドバイスをしてくださるなど陰で支えてくださり、私たちの良き手本となってくださいました。

府中第五中学校の柱として、先頭に立ち私たちをまとめ、支えてくださった先輩方はいつまでも私たちの憧れです。たくさんのことを教えてくださった先輩方に、私たちは感謝の気持ちで一杯です。頼れる先輩方が巣立っていかれるのは、とても寂しいです。しかし、先輩方の意思を引き継ぎ、私たちはこれからも府中第五中学校をみんなが大好きな学校であり続けられるよう、努めていきます。先輩方、これからも府中第五中学校で作った思い出を糧に、輝かしい未来への道を歩んでいってください。在校生一同、心から応援しています。卒業生の皆様の更なるご活躍を願って送辞とさせていただきます。

令和2年3月19日

在校生代表 紅谷咲良

<答辞>

例年になく暖かな気候の中、私たち165名は、今日、府中第五中学校を卒業します。

振り返るといろいろな思い出がよみがえります。入学式の朝、真新しくぶかぶかな制服を着て、これから始まる中学校生活に、大きな期待と不安を抱きながら登校した時のことを、今でも鮮明に覚えています。初めて学校に入ると、校舎がとても広く感じました。慣れない中学校での生活は、毎日が新しい発見ばかりで、一日でも早く新しい生活に慣れようと一生懸命でした。それでも、2月の校外学習の頃には、中学校生活にも慣れ、東京駅周辺を班ごとに行動し、無事に家に帰った時には、少し大人になった気がしました。

2年生になると、すぐに職場体験の準備が始まりました。初日は緊張したけれど、体験先の方々が親切に教えてくださり、難しい仕事もあったけれど、一つ一つの仕事に責任を持って取り組むことができ、貴重な経験となりました。この5日間の職場体験を通して、仕事の大変さと家族への感謝の気持ちをもつことができました。

期待と不安を抱えて入部した部活動も、2年生になると、私たちが中心となりました。一人一人が個人やチームの目標を達成するために努力し続け、辛く厳しい練習もあったけれど、たくさん汗と涙を流した分、一生の思い出を作ることができました。うれしかったこと、楽しかったこと、悔しかったこと、辛かったこと、いろいろなことがあったけれど、仲間の存在があったからこそ乗り越えることができました。そんな仲間には、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。本当に本当にありがとうございます。そして、後輩の皆さん。いつも私たちを支え、ついてきてくれてありがとうございます。これから先、くじけそうな時もあると思いますが、そんな時は、私たちのように仲間を信じて、あきらめずに頑張ってください。応援しています。

3年生を目の前にして行った校外学習では、鎌倉に行きました。班で協力して事前に計画を立てることは大変でしたが、当日は楽しい思い出を作ることができ、たくさん歩いて疲れたけれど、笑顔あふれる校外学習となりました。

3年生。新しいクラスになって、最初に行ったのが運動会でした。新しいクラスということもあり、最初はなかなか意見が合いませんでした。学年種目の「大ムカデ」では、クラス全員の息をそろえるために、みんなで意見を出し合い、練習しました。運動会当日は、自分たちのベストを出すことができ、「このクラスでよかった。」と心から思える達成感でいっぱいでした。

夏休みが終わって、まもなく行われた修学旅行。見学コースや予算などを、自分たちで考えることは、かなり大変でした。2日目の体験学習では、私は友禅染を体験しました。体験先の方は、分かりやすく教えてくださり、日本の伝統文化について深く学ぶことができました。また、宿舎の班では、普段話したことがない友だちとも仲良くなれてうれしかったです。修学旅行は、清水焼や和菓子作りなど、日



本の伝統文化を学ぶとともに、友達との絆が深まった最高の3日間でした。

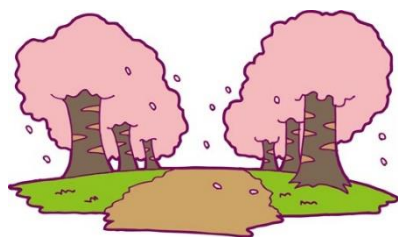
台風の影響で日程が変更になった合唱祭。気が緩んでしまうのではないかと心配しましたが、「中学校生活最後の行事」という思いもあり、他のクラスに負けないように工夫しながら練習しました。うまくいったことばかりではありませんでしたが、練習を通してクラスの団結力がより深まりました。

時が過ぎるのは早く、気が付けばもう受験でした。受験は、想像の何十倍も苦しいものでした。家に帰ると休む間もなく塾に行き、心の中ではわかっているのに、勉強から逃れたいくなる自分にイライラしたり、頑張っても頑張っても上がらない試験の結果に悩み、「あの時やっていたら」と後悔することもありました。そうして、何度もくじけそうになっても、ここまでやってこれたのは、友達がいてくれたからです。お互いの得意な教科を教えあったり、休み時間にはたわいもない話で笑ったり、時にはぶつかりあうこともあったけれど、それらも全部含めて大切な思い出です。

今日、私たちは新しい世界へ巣立ちます。時に厳しく、時に優しく指導してくれた先生方。自分の言いたいことや伝えたいことがうまく表現できず、辛くて当たってしまったたり、友達のことや進路のことで、先生方にはたくさん迷惑をかけたと思います。しかし、どんな時でも私たちとまっすぐに向き合って、何が大切かを気づかせていただいたおかげで、今の私たちがあるのだと思います。本当にありがとうございました。そして、わがままいっぱい私たちをいつも支えてくれた家族には、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも私たちを見守ってください。

これから私たちは、自分の夢や目標に向かって、一步一步歩み始めます。新しい世界の中で、思い通りにいかず不安になったり、やめたくなる時もあるかもしれません。そんな時には、自分を信じて、今までお世話になった方々のことを思い出して、自らの道を切り拓いていきます。

最後に、ともに3年間過ごした緑学年のみなさん、今まで本当にありがとう。みんなのおかげで楽しく、思い出に残る中学校生活を送ることができました。一生懸命打ち込んだ部活動。受験で辛かった時に、互いに励ましあったこと。この学年でよかったと、今心から思っています。正直なところ今日卒業なんて信じられません。緑学年の仲間とまだ一緒にいたいです。笑いあっていたいです。3年間本当にありがとうございました。



令和2年3月19日

卒業生代表 木下佳奈

1年間、ご協力ありがとうございました

令和元年度（平成31年度）が本日をもって終了となります。この一年、本校の教育活動についてご理解・ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。特に、秋の台風19号による校舎への被害や今般の新型コロナウイルスによる臨時休業など、激動の一年であったことと思います。そのような中、保護者や地域の皆様には、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

来月から始まる新しい年度も、今年度に引き続き、教育活動の様々な場面でご協力をいただくことになると思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

